



研究部会報告

●OR/MSとシステムマネジメント●

●第9回

日時：1月8日(土) 場所：東工大 出席者：15名

議題：文献輪読① “Basic Considerations in Organizational and Human Aspects in Systems Design”
報告者：井上一郎（日本電気）

情報システムの設計を行なう場合に、情報を使う人間、組織における情報システム部の位置づけ等を慎重に考慮する必要性を論じるために過去の種々の研究を整理している。

②A Design-Oriented Approach in Implementation Research 報告者：長野（東工大）

情報システムの実施問題解決のためのハンドブック作りを提唱している。

●第10回

日時：2月12日(土) 場所：東工大 出席者：25名

議題：関連研究「システムズ・アプローチと実施理論」
報告者：太田敏澄（東工大）

この研究報告は太田委員がウォートン・スクールで R. Ackoff のもとで研究してきたことをもとにしてなされた。具体的には R. Ackoff の示す softsystems thinking にもとづき「情報システムの実施問題」へのアプローチについて論じたものであった。報告後、種々の意見の交換が行なわれた。

●政策問題●

●1月例会

日時：1月22日(土) 14:00~17:00 場所：三菱総研
会議室（タイムライフビル4階）11名

演題1 「ソ連という国」 講師 福島康人（防衛研修所）
アンドロポフ新政権発足以来、ソ連の動向が注目されるが、長期的・マクロの視野で、その民族性・歴史・地政学的展開をとりあげた。特に、建国（1462）以来、500年間に100倍以上となる領土拡張の歴史で、抵抗の弱い方面は急速に侵略し、強い方面には根気よく浸透・侵食した経過は注目される。

演題2 「春季学会部会報告について」 講師 湊晋平（武田薬品）

政策問題部会の母体である PPBS・システム分析・政

策科学等以来の部会の歴史を整理し、春の学会での部会紹介事項を説明した。

●2月例会（政策問題研究部会最終会）

日時：2月26日(土) 14:00~17:00 場所：三菱総研
会議室（タイムライフビル4階）16名

演題 「日本 OR学会における PPBS→政策問題部会への歴史と役割」

講師 今村和男（防衛大学校）ほか

政策問題部会は、ホーグ博士の PPBSセミナー（1968）に端を発し、PPBS→フィッシャー研究→政策科学→政策分析→政策問題と、約15年にわたり、連続して「必ずしも数学的手法のみにこだわらないが、科学的思考を重視し、広領域ORにアプローチする」特色ある研究部会として存在してきた。学会規定により57年度を終了するので、創立以来のメンバーである今村・福島両先生を中心に、過去の歴史を回顧し、学会における役割と意義を検討した。この結果については、OR学会25周年を記念して年表の作成や歴史が回顧されているのにならって、何らかの形で記録に残し（OR学会誌への投稿等）1つの歴史を記したい。

なお、58年度より細貝康夫（三菱総研）を新主査として、新しい発展を期している。〔連絡 Tel 03(270)9211〕

●環境システム●

●2月 日時：2月16日(水) 18:00~20:00 場所：日
科技連 出席者：8名 発表：鳩山「森林伐採モデル」

内容：森林伐採計画において、対象となる面積がある程度以上大きい場合、森林の全域にわたって同じ伐採アクションをとることは不合理である可能性が大きい。総量として同一量で伐採するならば、広い面積から伐採するより、小面積で皆伐するほうが簡単で費用が安い。そこで全域をいくつかの区域に分割し、各区域毎単位で同一の伐採方式をとる政策をとりあげた。

●経営コンサルタント●

●第34回 日時：1月8日(土) 14:00~17:00 場所：
東京都勤労福祉会館

テーマ：「新春快談・それ行け 1983年の経営」で出席者全員で自由討論。「窮すれば変じ、変ずれば通じる」というコトバがありますが、本年はどうもそのような時点にさしかかっているようです。表面的には日本の経済は他国に比べてなかなか良いらしいですが、国際関係をながめてみますと、なかには日本のいままでの進歩・発展・成長がかえっていろいろな障害や摩擦の誘因になっている面もかなりあるようです。これを取りのぞいて明るい未来にするには賢い経営の実行しかないようです。